

2003

11/1

NO.854 毎月1日発行

小田原

広報

まちづくり情報誌

かけがえのない命、誕生。
この喜びをいつまでも。

【特集】

「子育てを考える」

「特集」子育てを考える 序章

特・別・寄・稿

人は、生まれたただけで 役目を果たす

作家 田口ランディ



子どものころ、私はあまり自分の家庭が好きではなかった。

父は船に乗っていたのでほとんど家にいない。母も勤めに出ていたので、私は家に一人でいることが多かった。年の離れた兄がいたが、兄も私が10歳のときには就職して家を出ていき、その後はほとんど母と二人暮らし。

今になって分かるのだが、母は更年期障害がひどかったらしく、夜中によくどうきや息切れで目を覚まして隣に寝ている私の手を握った。真夜中にじっとりと汗ばんだ母の手を握りしめて、私は母がそのまま死んでしまうのではないかと不安でたまらなかった。

きっと母も私と二人で不安だったのだろう。そういう母の気持ちを察するようになったのは自分がずいぶんと大人になってからだだった。

私ともう高校も卒業するころに、やっと父が家にいるようになった。そのころには親なんてうっとうしくて、ましてやずっと家になかたたくせに、偉そうにしている父親になじめなくて、私は逃げるように家を出てしまった。

家族全員がそろって楽しく暮らした……という記憶がない。だんらんのある家をうらやましいと思った。そういう家が私の理想の家庭だった。自分の理想と私の家族はあまりにも違うので、若いころは失望して家族を憎んだこともある。

そんなわけだから、自分はきつと家庭など作らないに違いない。万が一、結婚しても子どもを持たないかもしれない。漠然とそう思っていた。ところが、予想に反して私は26歳で結婚し、その後、高齢出産で子どもも産んでしまった。

私が子どもを産んだときの、両親の喜び方はびっくりした。孫とはそんなにかわいいものだろうか。母親は興奮して子ども服を買いあさり、生まれたばかりの孫に不釣り合いな幼児服を運んでくる。「こんなに大きいのに、まだ着れな



「作家」田口ランディさん

たぐちランディ:1959年、東京生まれ。2000年に実兄をモデルとした処女小説『コンセント』(幻冬舎)を発表し直木賞候補に。その後、エッセイ、小説とさまざまな分野で作家活動を展開。家族の問題、心の問題を独自の視点で表現し話題を集める。インターネット上でも継続的にメールマガジンを配信し、その読者数は10万人を超える。近著に『旅人の心得』(角川書店)『聖地巡礼』(メディア・ファクトリー)『7days in BALI』(筑摩書房)『モザイク』(幻冬舎)など多数



いよ」と私はあきれた。

「いいのいいの、かわいいから買っちゃった」。その母は、孫が生後6か月のときに突然に脳出血で倒れて、還らぬ人となった。

父のほうも、孫を猫っかわいがりで、自分のスパルタ教育は柵に上げて「あまり子どもに厳しくするなよ」などと私に説教するのである。「私のこともそんなふうに優しく育ててほしかったわ」と、私は父に文句を言うが無視される。

年老いた両親が見せた孫への溺愛(でんあい)ぶりは、なぜ私の気持ちに穏やかにした。理想の家族ではなかったけれど、この家族もまんざらではないと思えるようになった。私は大切なことを忘れていたのだ。家族はちっとも私の思いどおりにしてくれなかったが、少なくとも、私の幸せを願ってくれていた。思いがすれ違ふことはあっても、私の幸せを無心に祈り願ってくれる存在は、家族しかいない。そんな当たり前なことを、子どもが気づかせてくれたのだ。

今年のお彼岸、母の供養にと思って母の残した着物を着て過ごした。もう6歳になった娘に「死んだおばあちゃんが喜ぶと思って、今日はおばあちゃんの着物を着るんだ」と言ったら、娘がこう言った。

「じゃあ、私が大きくなったら私もおばあちゃんの着物を着てあげるね。おばあちゃん喜ぶかなあ」

そのときに、ふいに、自分が単なる「点」ではなく、母と娘の間をつなぐ「線」になったのだと思えた。そうか、子どもを産むって、自分が懸け橋になることなのだ、と、どすんと腹の底に実感できた。命をつなぐ線としての私。

子どもはただ生まれてきただけで私と家族を結び直してくれた。お役目ごころうさん、あとは自由に生きてください、と、私は子どもの幸せだけを願う無能な母であろうと思う。

今、なぜ「子育て論」なのか

「特集」子育てを考える 第1章

少子化と核家族化が進み、子育てに対する情報不足や経験不足などからくる、若い世代の育児不安が高まっています。同時に、仕事と育児の両立に悩みを抱えるケースも増えていきます。子の成長や喜びを再発見し、子育てを楽しめるまちとは、どうあるべきか。

まずは、児童精神科医学の権威である山崎先生と小澤市長との対談から、探ってみましょう。



市長対談



山崎 晃資さん
K.Yamazaki D.M. Prof. principal

やまざきこうすけ：東海大学付属相模中学校・高等学校校長、東海大学教育研究所教授・児童精神科医学博士。日本児童青年精神医学会理事長、国際児童青年精神医学会副会長など多数。『乳幼児の発達と精神衛生』など多くの著書を執筆するかたわら、NHKテレビ「今日の健康」などにも出演し、子育て中の親などにアドバイスを送っている



子どもを取り巻く環境の変化

市長 小田原市では今、福祉・環境・防災や経済の活性化などといった重要施策に加え、「健康と教育」を市政の大きな柱として、心と体の健康や、教育問題に真剣に取り組んでいます。今日はぜひ、先生の専門分野（児童精神科医学）の枠を超えて、広く助言を頂ければと思っています。

山崎 少子化が進み、社会も変化してきました。最近では、痛ましい悪質な少年犯罪に頭を悩ますことも多くなっています。このような時代に、いち早く「健康と教育」を柱として取り組まれているのは、素晴らしいことです。少しでもお役に立てばうれしく思います。

市長 まずは、お話に出た「社会の変化」ですが、子どもたちとの関係で何か気になることはありませんか。

山崎 少子化は問題ですね。現在の日本の出生率（合計特殊出生率）は1.31といわれています。資料によれば、平均寿命がこのままだと仮定して単純計算すると、100年後には日本の人口は半分に、1,500年後には一人になるそうです。一人では寂しいですよね（笑）。

市長 少子化は深刻です。経済的な問題や女性の社会進出に対する身分保障の問題など、複雑な背景もあることでしよう。青少年健全育成や子育て支援にしても、行政としてできる限りの支援策を行っています。

しかし、特効薬のようなものがある



子は次代からの預かりもの 次代への贈りもの

わけではない。行政も一生懸命やっているのですが、全国的に見ても効果は上がっていないのが実情のようです。

山崎 子育てに関して言えば、その方法は千差万別。市長さんが、子育てについていろいろ考えていられることは、とてもよいことです。

でも、最近では「何でも行政に要望すればいい」というあしき風習が見られ



るのも事実です。昔は、子どもは何となく周りが守ってくれて、みんな育ててきた。「人に何かしてほしい。してくれない」と子育てができないなどという話は、あまり聞かなかったような気がします。

市長 しかし行政も必死です。何とかして元気なお子さんを育ててほしい、少しでも助けてあげたい、と思うのです。子どもは次の世代を担う大切な宝物。「次代からの預かりもの」、そして「次代への贈りもの」なのです。

山崎 そうですね。子どもはやはり宝物です。

最近私が子どもと接していて感じるのは、普通に生活している子どもでも、

何か不安げであることです。人を信じていないのかな、と思うこともしばしば。その根源がどこにあるか考えるのですが、やはり親自身が不安を持っている、この不安が子どもに影響を与えているのではないのでしょうか。親自身が、子どもをどうしかるべきか迷っているようです。

市長 やはり親の影響は大きいですね。

山崎 子どもが2歳になるまでは、できるだけ子どもと接する時間を増やしてほしいです。海外の学会などに行くのですが、出席する女性の先生は当たり前のように赤ちゃんを連れてきます。

乳幼児期に親の愛情を受けていないと、子どもは不安を持ったまま成長してしまふのです。最近では日本でも育児制度が充実してきましたが、海外に比べると、職場復帰後の地位の保障などの面では、まだ遅れているように感じます。このあたりは行政でも支援できることかもしれませんね。

市長 同感です。私もまずは、市役所が率先して女性の社会参画を支援する制度を作りたいと考えています。小田原

市では、県内で一番早くファミリーサポートセンターを作り、現在は600人が会員になっていただいています。これもその一つです。

大きな揺りかごの ようなまちへ

山崎 今、イギリスで「里帰り分べん」



ぜひ今の子育て中のお父さんお母さんにも、その楽しさを実感してもらいたいですね。

市長対談

という言葉が日本語のまま使われています。都会などで、周りに相談相手のいないかたも多く、祖父母の元で安心して子どもを産むという、昔の日本の考え方を見直しているのだと思います。今はお年寄りが元気ですから、よいことですね。人に頼りにされれば、お年寄りもますます元気になるし、言うことありません。小児科の先生に聞くと、若いお父さんやお母さんが相談に来る内容の7割から8割は、お年寄りに聞けば、病院に来る必要のないことだそうです。

市長 そうですね。社会の知恵をもっと活用したほうがいい。ところで、先生の「子育て観」を聞かせてください。

山崎 私には3人の子どもがいます。しかし、よい父親だったとはいえないですね。とにかく忙しかったし、決して教科書に書けるような親ではなかった。でも、子育ては楽しかった。子どもを愛する気持ちは自慢できていると思っています。

市長 優しい父親だったのですね。

山崎 いえいえ、私はどちらかといえば厳しかったですよ。ビシビシしかったです。でも今、孫が生まれたのですが、もうかわいくてしかたなくて、「思いつ切り甘いおじいちゃん」になってしまいました(笑)。子育て観というものは、年齢によっても人によっても違うものです。性格だって千差万別。型にはまる必要はありません。「子どもと共に生きている」という実感が持てれば、それでよいのではないのでしょうか。あまり「子どものために」と無理をしないで、子どもと一緒に成長していくことを楽しめばいいと思います。



市長 私の父も厳しかった。いわば「猿山のリーダー」のような人で、威張っていましたね。そのかわり「おれは死ぬまで親であり続けるし、何があってもおまえたちを守る」と言ってくれました。家族も皆、何があっても必ず助け合えると信じていました。私の息子も、同じように思ってくれていることでしょう。

山崎 ぜひ今の子育て中のお父さんお母さんにも、その楽しさを実感してもらいたいですね。そのために私たちも努力していかなければならない。行政としても、側面から若い人たちを支えてあげてください。

市長 私は、小田原のまち全体が大きな揺りかごのような存在にできればいいと思います。そのために、彼らと向かい合いながら、最良の環境を作っていきます。それが仕事だと思っています。ぜひ先生には、これからもお力になってください。今日はありがとうございました。

山崎 ありがとうございます。



教育の現場から

ここでは、子育てにかかわる専門家や、各方面のかたの「子育て観」について聞いてみました。

生まれついでの悪い人はいない

「戦後の日本は本当に貧しかったですね。皆生きるために必死でした。家のため、家族のために、幼い子たちは学校に行かずに働いていました。今日や明日に食べる物もなく、やむなく盗みを働き、捕まった子もいました。崩れていった友達を何人も見てきました。私は、そんな彼らを見ながら『将来、このような弱い立場の子どもたちを助けてあげたい』そう考えたのです」。

現在、泉中学校でスクールカウンセラーをしている日下部さん。スクールカウンセラーとは、子どもたちの心のケアをするために学校に派遣された、臨床心理士の資格を持った専門家のこと。市内では、泉中学校を含む中学校4校にスクールカウンセラーが置かれています。

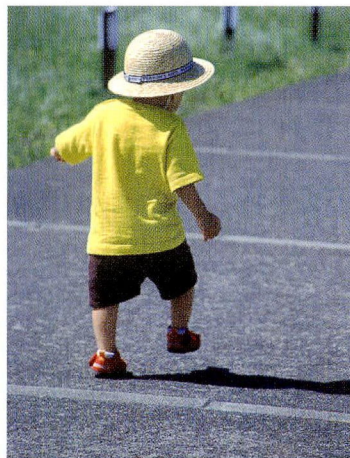
日下部さんは、昨年4月に泉中に赴任しましたが、それ以前には小田原少年院の院長を勤めるなど、非行少年の指導を35年間にわたり担ってきました。その経験がスクールカウンセラーとし

ての仕事の中にも生かされています。

「一番大きかったのは『生まれついで悪い人はいない』という考え方を得たことですね。社会で罪を犯すには、それなりの原因や理由があるのであって、必ず救う方法があります。例えば、物を盗んではいけないと分かっているのに盗んでしまう人がいます。理由は経済的な問題であったり、精神的なものであったりしますが、その人が自分の心の弱さに打ち勝つことができれば、その人は物を盗むことをしなくなるのです。経済的なことは、福祉などの関係機関につないであげる。精神面では、ありきたりですが、話を聞いてあげることが大切だと考えます」。

スクールカウンセラーへの相談は、子どもだけでなく、学校の教員や保護者からの悩みなども受けることができます。システムになっています。特に保護者の方から直接電話を受けることが多く、相談内容は子どもの問題から親子関係、家庭問題まで多岐にわたります。

しかし、それらの悩みの多くは子育てに影響し、結果的には子ども自身の悩みへとつながっていくことが少なくないそうです。

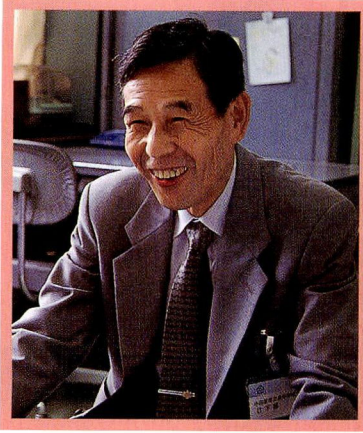


「子どもにとって一番大事なのは、いつもつながっている人がいるという安心感。両親が共働きで昼間はひとりぼっちだとしても、信じ合える家族がいれば、子どもは孤独感を感じないのです。毎日少しでも、一言でも必ず声をかけてあげてください。信頼はそこから始まります。思春期になると、子どもは親と話すことを嫌うことがあります。その反面、親に話したいことも必ずあります。そのときにきちんと聞いてあげられるかどうか子育てへの『かぎ』となるのです。

子どもは、あなた方だけのものではありません。あなた方は、次の時代を担う社会の宝を託されているのです。そう思って大切に育ててください」。

日下部 守 さん

スクールカウンセラー



日ごろから親子が 気さくに話し合える関係を 築いてほしいですね

毎日、多くの生徒が保健室を訪ねてきます。中学生ぐらいになってくると体はどんどん大きくなりますが、心は不安定ですから、進路などで悩むことがいっぱいあってストレスを感じることも多いようです。ストレスが体の調子を狂わせて、おなかが痛くなったり、

気持ちが悪くなったりしてしまう。それで、保健室に助けを求めてくることになるのです。

それは子どもにとつてのSOS信号。近くにいる大人はそれに気づいてあげたいですね。こうして頼ってくる生徒の声をいろいろ聞くと、原因は心、ストレスにあるのです。

中学生になって周りトラブルを起こしがちな子の多くは、ずっと以前からのコミュニケーションがうまくとれないことが原因であるように思います。一つの不満が日々の積み重ねとともに思春期になって噴出してきます。生徒たちの話を聞いていて、日ごろの家庭生活の中で両親の背中

が見えてこない。仕事が忙しいなら、そのことを話してほしいのです。

例えば「お父さんお母さんは生活を支えるために仕事をしていて忙しいけれど、子どもといえど、あなたも家族の一員。だから協力してほしい」と言うべきだと思うのです。押しつけでなく、理解を求めする必要があります。もちろん、何も親らしいことをしないで、子どもに要求しても反発を招くだけです。日ごろから気さくに何でも子どもと話ができる関係を作ることが一番なんです。

また、こんな話は世間のご両親は十分承知されていて、私が偉そうに言

うのもなんですが、子育てというのは親だけがするのではないと思います。地域、学校・教員も一緒に子育てをしていくのです。

子育てには母性と父性が必要です。これは母親と父親という意味でなく、温かく接するときと厳しく接する場面があるということです。子どもの自我を理解して自尊心を傷つけないように育ててほしいと思います。

家庭の数だけ子育ての理念がありますから、これが絶対よいといった決まりはありません。育児に悩んだら、地域にいる民生委員さんに相談したり、子育て支援センターやファミリーサポートセンターなどいろいろな制度を利用したりしながら、わが家なりの子育てをしてほしいと思います。



見つけ直そう子どもの健康
全国養護教諭連絡協議会常務理事
小田原市立泉中学校養護教諭

野地 絹江 さん



親子で「食」を共有することが大切です



小田原女子短期大学家政学科専任講師

辻ひろみさん

昔、食事は自分の家で食べるのが当たり前でしたが、20年ほど前からファストフードに代表されるように、家庭で食べなくてもいつでもどこでも食べられるようになりました。同時に、個人を尊重する時代を迎えて「自分の時間をもっと楽しむ」ため「食事に割く時間は無駄。お腹が膨れればそれでよい」と考える人たちが増えたのです。

共稼ぎや核家族の増加により、子どもは、親やほかの世代の人々とかかわって「食の大切さ」を生活の中で覚える機会が少なくなっています。今の時代に育った世代が親として「食の大切さ」を子どもに伝えることは難しくなるでしょう。本来生きていくことの中で大きな部分を占めるはずの「食」が、家庭で軽視され、置いてきぼりになっています。

スプーンやフォークで食べるが増えたため、おはしを正しく持てない子どもが増えています。おはしが正しく持てないと、鉛筆の持ち方も悪くなり、鉛筆の持ち方が悪いと、正しく字が書けないなど学習面にも影響を与えます。このように、食事に対する基本的な姿勢の崩壊が、教育面にまで波及するのです。

きちんとした食事、それにはまず週に1回でよいですから「主食、主菜、副菜がそろった食事を、家族皆で作り、楽しく食事をする日」を持つことです。家族で食事の支度をして、食べて、片

付ける。例えばお魚をおろすときには、はらわたや血を見せたり、野菜を切ったときの香りを感じるなど、調理の過程で親子が「食」を共有することが、子どもの人格形成においてもとても大切なんです。

最近はいわゆる「キレる」子どもが増えています。食の観点からいえば、それは単に栄養バランスや偏食だけの



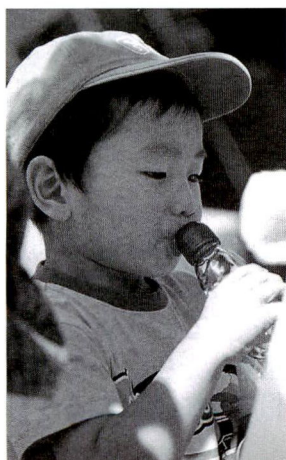
問題ではなく、幼いころから正しい食事を積み重ねていないことによる心のアンバランスからきているケースも少なくありません。それほどまでに、食と子育ては密接に関係しているのです。食事はその人の歴史そのもの、といえるほど長い年月をかけて積み上げられていくものです。食育の成果が表れてくるのは、今から何年も先になるかもしれません。しかし、多くの人々

が食事の持つ影響力を再認識し始めて、周囲のみんなでも子どもたちを見ていこう、という昔の地域社会に似た環境を取り戻しつつあることも事実です。健康意識が高い親でも、家庭で子どもに食事の支度を手伝わせているかという点、実はそうでもないのです。お手伝いは自らが生き抜く力をつけるための教育である、と気づいてほしいものです。

食育の目的は、ちまたにあふれる多数の食べ物の中から、本当に自分の体に必要なものを見極めて摂取できる能力を身につけて、実践できるようなことです。長期的な視野で見ても無理をせず、自分のできるところから少しずつ進めていけばよいのです。

大人になってから食事のスタイルを変えることは、とても難しいことです。食事をすることに幸せを感じるには、子どもが何も分からず、これから学習するときから、無理なく食べられるような方向づけをすることが必要です。食の自立ができる子どもは、大人になっても食の大切さを忘れません。しかし、いくら言葉でその大切さを教えても、そのように育つものではありません。

楽しくきちんとした毎日の食事の積み重ねこそが、そのかぎを握っているのです。



子どもと長く一緒にいられる、という喜び

〜曾我保育園の保育士さんから〜

「あれ？ だれもいないのかしら…」と思わず感じてしまうほどの静けさ。緑の山々と田んぼに囲まれた小学校のすぐそばに曾我保育園がありました。部屋の中を案内していただくと、パジャマを着た子どもたちが、布団の上でお昼寝中。ぐっすり寝ている子もいれば、目を開けて先生のことを見ている子もいます。保育時間が長いので、体を休める時間が必要だそうです。

5歳児担当の小林須美子先生、4歳児担当の宇佐美典子先生、乳児担当の吉川久代先生、園長の福山秋子先生にお話を伺いました。

保育時間はそれぞれの園で違いますが、曾我保育園は朝8時から夕方6時まで。一日一緒にいるだけに、子どもが分るそうですが、子どもが何か悩みや問題を抱えているのなら、それを保護者と協力して解決していかなければなりません。そのため、日ごろから保護者との信頼関係を作るよう心掛けているそうです。

「最近、ストレスを抱えていそうな子どもは増えていきますか？」と尋ねてみました。最近の一般的な傾向として、子どもの思いと親の思いが微妙に違って、自分のしたいことと違っていても親を喜ばせようと努力し、それがストレスになってしまいう子がいるそうです。「子どものやりたいことをやらせて、いっぱい愛してあげてください」と福山先生。

以前は幼稚園の先生だったという宇佐美先生に、幼稚園と保育園との違いを尋ねました。「保育園のほうが、子どもと長く一緒にいられることですね。一緒に長く過ごせてとてもうれいしです」と笑顔で答えてくれました。



母親は子どもといることが楽しいと思えるはずなのに、そうでないときもあるのはなぜだろう？との私の疑問は、次に訪問した保健センターでの保健師の内田さんとの話で、少し分かったような気がしました。

子どもと過ごす時間、自分の時間

〜保健センターの保健師さんから〜

保健師の内田さんにお話を伺いました。保健センターでは、定期的な乳幼児

健診以外に電話相談や育児相談を毎日行っています。ほとんどが初対面の、たくさんのお母さんからいろいろな相談を受けています。相手を傷つけずに、しかしアドバイスはしっかりと伝えないといけないという大変な仕事です。最近増えているのが、虐待を疑われる子どもや母子で引きこもり状態になっているケースだそうです。それは、母親の気持ちに満たされていないからではないか、というお話でした。

「仕事を続けながらの育児は大変だったけれど、仕事をしている時間を持てたのは、自分のためにはよかったですね」と内田さん。

満たされていない母親の多くは「子どもを育てる母親」という立場だけではないでしょうか。子育ての期間が自分にとって全く空白の時間になってしまうと、子どもに自分がない夢を託すなど、あれこれ期待しすぎるようになって、子どもがそれにこたえられないうえ、がっかりしてお互いストレスを抱えることになってしまいます。

私自身を振り返ってみても、自分の世界を持つことで、子どもと過ごす時間も楽しくなったように思います。成長していく子どもと共に過ごす時間を大切に、その中で自分自身でいる時間も大事にしたいです。子育てしていても、広い社会にかかわって生きていけるような、小

田原がそんなま

あつてほしいと思

広報リポーター
永井恵理子さん

現場から

市民の皆さんからの公募による「広報リポーター」さんによる取材です。「小田原の子育てってどうなんだろう?」「私たちは何をしたらいいの?」など、素朴な疑問のヒントになるかもしれませんね。



優しい笑顔で、準備は万全
「託児ボランティアグループ「はちの会」」

「お母さんは忙しいのが当たり前」なんて思っていないませんか？

子どもは次代を担う希望の星、社会全体で育てましょう！というところで、子育て支援のボランティアグループのかたがたをご紹介します。

まずは、お母さんたちの社会参加のお手伝いをする「子育て期の母親にも学習の機会を」という目的で結成された、託児ボランティアグループ「はちの会」。

活動内容は、市などが開く講座や講演会に参加するかたが連れてくる未就学の子どもたちの託児です。会員は、20代から60代の60人。年間の活動回数は、延べ200回以上。会員のほとんどが、子育てや仕事、地域やPTAの活動しながら携わっています。民間の団体や学習グループからの依頼や、県の行事のお手伝いに出向くこともあるとか。初めて行く会場は事前に下見をするなど、準備態勢は万全だそうです。

「皆子どもが好きなので、一緒に遊んだりしています。託児の2時間はし

つけの時間でもあるわけで、神経を使いますね。託児研修のため保育所へ実習に行ったり、小児科の先生に児童心理の話聞いたりもします。お母さんから

「おかげで勉強できました！」と言われるとうれしいものです。心配しないで一度預けてみて、と呼びかけています」と、代表の石井章子さん。皆さんの優しい笑顔が印象的でした。

「自分の子育てのときに経験できなかったことを、今体験している」と言う皆さん、やっぱり育児は楽しいもの。

「お母さんたち、もつともつと外に出て！ 子育て中のお母さんが参加できるように講座がもつと増えるといいですね」という意見も頂きました。

20数年に及ぶ「はちの会」の活動は、平成4年に「市民功労賞」を受賞。取材で、一期一会の心が伝わってきました。託児の時期が過ぎると、子どもも立派な社会の一員。核家族化が進む中、世代間交流の大切さを感じました。

昔のよさ、お年寄りの気持ち
「ボランティアグループ「さざなみ会」」

おだわらシルバード大学の卒業生が作ったボランティアグループ「さざなみ会」は、在学中に学んだ民話を語り、子どもたちに伝承おもちや作りや遊びを教える活動をしています。発足して3年目。会員は現在8人。「物を作る、作り上げる楽しさを知って挑戦してもらいたい。民話のように先人から伝わってきたものを大切に、次に伝えてもらいたい」と、皆さん頑張っています。

訪問先は幼稚園、小学校、老人ホーム、そして子ども会や関連する行事など。子どもたちの笑顔を思い浮かべながらの準備は楽しいと言います。少子高齢化とはいえ、身近にお年寄りがない家庭は意外と多いもの。若い世代

の親からは伝え

きれないこ

とはたく

さんあり

ます。

「どんなこ

とも臆せず

に堂々と、よいと思ったこ

とはやり遂げてもらいたい」「お年寄り

とのふれあいは非常に大事。小さい子

に純粋な育て方をしたいなあ」と話して

くれました。子どもたちへの愛情の根

底にあるのは、まさにこの気持ちなの

です。

現在は、かもめ図書館の児童クラブ

「かもめつ子」でおもちや作り教室や民

話の語りをしています。また富水小学

校や国府津小学校、下府中小学校でも、

民話の語りや手作りおもちゃを教えて

います。昔のよさ、お年寄りの気持ち

を分かってもらいたいと、純粋な思い

があふれていました。



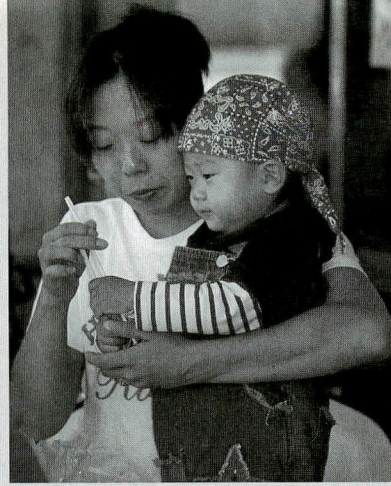
広報リポーター
久保寺弘子さん

広報リポーターが行く

子育て支援の

[特集] 子育てを考える 第3章

[特集]
子育てを考える
第4章



子育てするなら小田原だね!

そんな環境づくりに取り組んでいます ~市の子育て支援事業~

急速な少子化や核家族化、夫婦共働き家庭の増加などにより、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。安心して子どもを産み、楽しく生き生きと子育てができるよう、また子どもたちが健やかに成長できるよう、市はさまざまな事業を行っています。

☎◎児童福祉課 ☎33-1453

☆保健センター(健康づくり課) ☎47-0820

今年度からの 新しい事業

① 父子手帳の交付

核家族化が進む中、育児についても夫婦の協力が不可欠になってきています。仕事などで忙しかったり、育児をしたいけれど何をしていたらいいかわからなかったり、父親の育児参加がなかなかできないというのが現状ではないでしょうか。

そこで、育児マニュアル本「パパのための子育てハンドブック(父子手帳)」を作りました。「初めての赤ちゃんだから何をしていたらいいかわからない」「育児について再確認したい」など、妊娠時から幼年期までの子育てについてまとめました。

ママとパパが協力し合って赤ちゃんを育てましょう。ぜひ、子育てにお役立てください。
配布方法 11月から母子健康手帳交付時にお渡しします。

② 子育てサークルへの 助成

子どもの心の発達において、幼児期における子ども同士のかかわりは大切な生活経験であるといわれています。

子育て中の保護者の皆さんと就学前のお子さんが集まって、遊び、学び、情報交換をする子育てサークルの活動に補助金を交付します。

③

子育て支援スタッフの 委嘱

子育ての不安や悩みなどについて、ご近所または友人のような関係で気軽に相談できる身近な相談役として、地域の子育て経験者などのかたがたを「子育て支援スタッフ」として、10月28日(火)に委嘱しました。子育て支援スタッフは、子育てのちょっとした相談におこたえします。お気軽にご相談ください。

また、厚生労働大臣から委嘱された「民生委員児童委員」のかたがたが、子育ての相談などに応じています。

子育てに不安や悩みはつきものです。一人で悩まないで、まずは相談してみたいかがですか。※子育て支援スタッフのお名前などは「広報おだわらいふ」11月15日号に掲載します。



④ 「子育てシンポジウム」を開催!

子育てに不安や悩みを抱えているお母さんお父さんにとって、今何が問題なのか、今後地域ではどのような支援が必要なのかを考えるシンポジウムを開きます。

日時 平成16年1月中旬
場所 中央公民館

※詳しくは、「広報おだわらいふ」12月15日号でお知らせします。

⑤ 母子家庭・父子家庭を支援します (日常生活支援事業)

母子家庭のお母さんや父子家庭になって間もないお父さんが、技能習得や病気などのため、一時的に保育や生活支援サービスを必要としている場合に支援員を派遣するサービスです。

前年の所得額により、サービスを受けることができない場合があります。

☆6 親子心理カウンセリング

お子さん(就学前)の心身の発達に悩んでいるかたを対象に、臨床心理士が相談や助言、指導を行います。

※電話予約制

☆7 街かど育児相談

買い物ついでに気軽に立ち寄って、赤ちゃんの成長を確認したり、子育て中のちょっとした悩

☆8 食育実践活動事業

みを打ち明けたりできるように、市内2か所(ナック・イトーヨーカドー)で育児相談を行います。

よい食習慣の基礎は幼児期につくられますが、「朝食を取らない」「好き嫌いが多い」など、食の問題が出る時期でもあります。

正しい食習慣の第一歩は、食べることに興味を持つことから始まります。

市では、子どもたちに正しい食習慣を身につけてもらうための教室を幼稚園などで開くなど、食育に関する事業を行います。

まだまだあります !ご存知ですか? 主な子育て支援事業!

① 乳児保育

保育所では、通常の保育のほかに、次のような特別保育を行っています。

産休明け(生後2か月)からの赤ちゃんが健やかに成長していけるよう、ご家庭と連携した保育を行っています。

② 延長保育(平日)

勤務状況や家庭事情などにより、通常保育時間以上の保育を希望されるかたには、最長午後7時までの延長保育を行っています。

③ 一時保育

保護者のかたが通院や冠婚葬祭、ボランティア活動など一時的に

④ 休日保育

保育ができなくなったときに、保育所でお子さんを預かる一時保育を行っています。

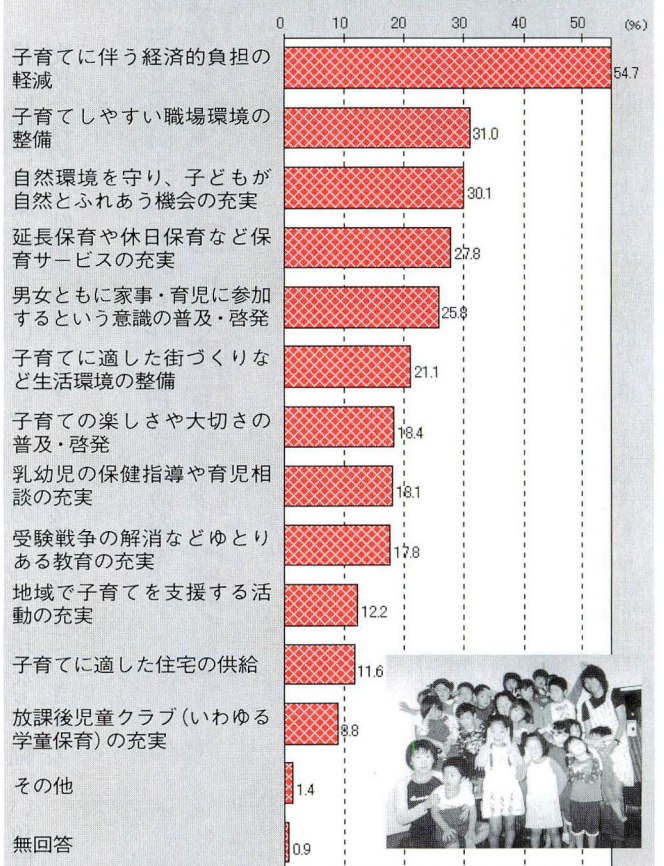
仕事の勤務形態などから、日曜、祝日などに保育を必要とするかたを対象に、休日保育を行っています。

⑤ 障害児保育

保育所での集団生活が可能な障害のあるお子さんの保育を行っています。

※特別保育を行っている保育所など詳しくは、児童福祉課までお問い合わせください。

安心とゆとりをもった子育てに必要な対策



資料: 神奈川県「平成14年度県民ニーズ調査結果・少子化時代の子育てについて」

【地域・家庭への子育て支援】

① ファミリー・サポート・センター

育児援助を受けたい会員と育児援助を行いたい会員を登録し、紹介する事業を行っています(援助活動は有料)。

保育所・幼稚園、小学校や放課後児童クラブなどの開始時刻までの間、または終了後にお子さんを預かりしたり、送迎したりします。小田原市は、平成11年度に県内で初めて、当センターを開設しました。

●ファミリー・サポート・センター(社会福祉センター内) ☎350053

② 子育て支援センター

親の子育てに対する不安や悩みを解消し、自信とゆとりをもって子育てができるように、育児相談や育児情報の提供、子育てサークルの支援などを行っています。

相談方法 電話と面接(面接相談希望のかたは事前に☎ご連絡を)
相談日時 毎週月～金曜日 9時～16時

また、親子でゆったりと過ごせる場として「子育て広場」を開いています。育児相談も受けられます。予約、申し込みは不要です。
・城山ひろば(城山乳児園) 月曜日(第3月曜日を除く)
13時～15時、火曜日10時～15時
・マロニエひろば(マロニエ) 水曜日・木曜日10時～正午

・しらすぎひろば(多古しらすぎ会館) 金曜日10時～15時

※各施設の都合により、日程が変更になる場合があります。

●子育て支援センター(社会福祉センター内) ☎340465

③ 地域育児センター！ 保育所ひろば

保育所などに通っていない乳幼児がいる家庭への子育て支援として、保育所で行われている行事へのお誘い、園庭の開放、育児相談、子育てに関する情報提供などを行っています。

④ おだわらブックス タート事業

保健センターで行っている4か月児健診時に、赤ちゃんに絵本などを贈り、家庭での読み聞かせを応援する事業です。

親のひざに抱かれ、肌のぬくもりを感じながら、ことばと心を通わず、そんな楽しいひとときを「絵本」を通じて持つてもらうために、平成14年度から行っています。

【母子保健】

☆1 ママ。パパ。学級

妊娠中のお母さんが、安全な出産を迎えられるよう、知識などを習得する学級です。
また、妊婦同士が仲間づくりをすることで、問題の共有化や解決ができるよう支援します。

☆2 いきいき親子 育児相談

保健師や助産師、栄養士、歯科衛生士などの専門スタッフが、妊娠・出産・育児に関する悩みに対応します。

☆3 新生児家庭訪問

病院から退院して授乳や育児に戸惑う時期に、保健師や助産師が家庭訪問して、保健指導を行います。

☆4 子育て応援講座

子どもの体の特徴や発育の仕方などを学習するなど、父母、祖父母、みんなで育児について考え、話し合います。

☆5 乳幼児健診

専門スタッフが、発育や発達の節目の時期に健康診査を行い、育児支援を含めた保健指導を行います。

▼休日・夜間に お子さんが急病のときは

●休日夜間急患診療所(保健センター1階) ☎470823

●市立病院の小児深夜救急診療(22時以降) ☎343175 (お越しになる前に必ず電話で連絡を)

「子育て」を 地域全体で支えよう

これからは「子育て」を、ボランティア、企業、行政など、さまざまな機関が手を取り合って応援し、地域全体で支えることが大切です。未来を夢見る子どもたちが、はつらつと、生き生きと育つよう、地域の皆さんで支えていく社会を目指しましょう。

市としても、保育施策の充実や地域での子育て支援など、幅広い角度から支援策を考えていきます。

子育て奮闘中のお父さん・お母さん必携！

「ぴんたっこ」と「健康カレンダー」

今回掲載した事業のほか、市では、各種手当の支給や医療費などの助成制度、幼稚園教育や放課後児童クラブの充実、子どもの遊び場の提供など、さまざまな事業を行っています。詳しくは、子育て情報を掲載した小田原市子育てマップ「ぴんたっこ」をご覧ください。

また、お子さんの健診や予防接種など母子保健サービスの日程などは、

「健康カレンダー」でお確かめください。

「ぴんたっこ」と「健康カレンダー」は、児童福祉課(市役所2階)、保健センター、支所連絡所、

マロニエ住民窓口などにあります。

ぴんたっこ

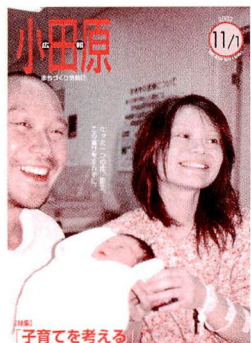




<p>①市立図書館</p> <p>城内7-17 ☎24-1055</p> <p>小田原城址にある歴史ある図書館。調査・研究機能を中心に資料館の役割を担っています。児童図書もあり、定期的に「絵本のよみきかせ」や「子ども映画会」を開いています。</p>	<p>②かもめ図書館</p> <p>南鴨宮1-5-30 ☎49-7800</p> <p>親しみやすい図書を中心に、身近な図書館となっています。視聴覚コーナーではビデオ・CDの視聴などが気軽に利用できます。児童図書コーナーには、乳幼児連れのかたが利用できるスペースがあります。また、定期的に「絵本のよみきかせ」やホールでの「子ども映画会」も開いています。</p>	<p>③川東タウンセンター マロニエ</p> <p>中里273-6 ☎47-1515</p> <p>文化・交流・活力を作り出す拠点として、また地域への新しい行政サービス拠点として親しまれています。児童プラザ「ラッコ」や図書館機能、またフリーマーケットなどの開催場所としても活用されています。</p>	<p>親子で楽しめる おだわらの公共施設！</p>  <p>小田原には、親子で気軽に楽しめるスポットがいっぱい！季節や天気に応じていろいろな楽しみ方ができます。</p>
<p>④酒匂川 左岸サイクリング場</p> <p>酒匂川左岸 公益事業協会 ☎23-4470</p> <p>酒匂川河川敷にあり、1周1620mのコースと660mのコース、その内側には広いスペースがあります。いろいろなタイプの自転車の無料貸し出しもあり、手軽に楽しむことができます。</p>	<p>⑤小田原城址公園</p> <p>城内6-1 ☎23-1373</p> <p>城址公園内には、天守閣などの史跡のほか動物園と遊園地があります。動物園には人気者のゾウ「梅子」をはじめ、ニホンザルなどの小動物たちがいます。また、遊園地には豆汽車や豆自動車などの遊具があり、小さいお子さんに喜ばれています。</p>		
<p>⑥こどもの森公園 わんぱくらんど</p> <p>久野4377-1 ☎24-3189</p> <p>遊びに熱中できる感動と発見が待っている公園です。起伏に富んだ地形を生かし、自然とたわむれる大型遊具、ポニーの乗馬体験、園内を一周する子ども列車「なかよし号」、大きな芝生広場など、一日中楽しめます。</p>	<p>⑦生命の星・地球博物館</p> <p>入生田499 ☎21-1515</p> <p>地球の歴史、生命の営み、神奈川の自然、地球環境の重要性までを総合的にとらえる「見て、触れて、体感できる」新しいタイプの県立博物館。建物の外観もユニークです。</p>	<p>⑧いこいの森</p> <p>久野4294-1 ☎24-3785</p> <p>森林浴にウォークラリー、ターゲットバードゴルフに木工芸体験と、自然を満喫できる本格的森林レクリエーション施設です。夏はキャンプもできます。バーベキューガーデン(3月~11月・事前予約制)では、材料と用具をセットで貸してくれるので、手ぶらでもOKです。</p>	<p>⑨上府中運動公園</p> <p>東大友113 ☎33-1583(公園緑地課)</p> <p>総合運動公園。公園内は小田原球場をはじめ、スポーツ広場、多目的広場、チビッコアスレチック広場などに分かれ、大人も子どもも一緒になって遊べます。また四季折々の木々や花も植えられており、憩いの場としても楽しめます。</p>

今月の表紙

表紙の写真は、市立病院で産声を上げたわが子と感激の対面を果たした、お父さんとお母さんの喜びの瞬間です。出産直後にもかわからず、子育て特集に賛同し、快く写真を撮らせてくれたのは、桜井克泰さん・愛子さん夫妻でした。子育て中の皆さんも、この喜びの瞬間をいつも胸に、頑張ってくださいね。



子育て 絵本情報！

子ども向け絵本 みんなに人気がある 絵本はどれ

市立図書館、かもめ図書館、マロニエ図書室で、子ども向け絵本のうち貸し出し回数も多く、人気がある絵本をまとめてみました。

読んだことがある絵本はありますか？

※最近の貸し出し状況をまとめました。

- 『きかんしゃトーマス』シリーズ (ウィルバート・オードリー 著)
- 『ぐりとぐら』シリーズ (なかがわ りえこ 著)
- 『11ぴきのねこ』シリーズ (馬場 のぼる 著)
- 『アンパンマン』シリーズ (やなせ たかし 著)
- 『14ひき』シリーズ (いむむら かずお 著)


人気がある絵本もいろいろ...こんな本もありますよ。

お子さんにぜひ読んでほしい、読んであげたい、おすすめ絵本

市立図書館発行の小冊子「よんでみよう！子どもの本」から

- 『いないいないばあ』 (松谷 みよ子 著)
- 『きゅっ きゅっ きゅっ』 (林 明子 著)
- 『じゃあじゃあびりびり』 (まつい のりこ 著)
- 『おしゃべりなたまごやき』 (寺村 輝夫 著)
- 『どろんこハリー』 (ジーン・シオン 著)

貸し出し回数が多い人気の絵本と併せて、おすすめ絵本もぜひ読んでみてくださいね。



おすすめ絵本の『いないいないばあ』と『じゃあじゃあびりびり』は、4か月児健診時に赤ちゃんに贈る「ブックスタートバック」にも入っています

小・中学校の 二学期制を考える

なぜ二学期制か

国の教育改革の柱として、平成14年度に始まった「完全学校週五日制」。

この制度により毎週土曜日が休みとなることで、子どもたちが家庭や地域でいろいろな体験をする機会を増やし、心豊かでたくましい人間を育てようという動きが、全国各地で高まりました。

しかしその一方で、学校の授業時間が少なくなり、生徒の学力が低下するのではないかとという心配の声も出るようになりました。

今、教育には、学校週五日制のメリットも残しつつも、授業時間を確保し、窮屈になったカリキュラムを見直すなど、児童・生徒と教員に時間的、精神的なゆとりを生み出すことが必要となっています。そこで考えられた一つの方策が、二学期制なのです。

二学期制とは？

二学期制は、一般的には現在の二学期に当たる10月中旬に、数日の「秋休み」を入れ、これを境に学期を前期と後期の二つに分ける制度です。

二学期制が導入されると…

次のように、いろいろな利点が考えられます。

① 授業時間の確保

学期が3回から2回に減ることで、始業式・終業式や学期終了前後の半日日程、また定期テストなどの日数が減るため、学校週五日制で減った年間の授業時間数がある程度確保できます。そのため、基礎学力の確実な定着を図ることができます。

② 柔軟な行事の設定が可能に

短時間で分断される三学期制では位置づけられなかった夏休み前や冬休み前に、柔軟に行事を設定することができるので、より教育効果が高まります。

③ 長期的な視野での評価

一つの学期が長くなることで、子どもたち一人一人に応じて学習の過程や達成度をじっくりと見取り、指導ができるようになります。

その結果、広い視野から、より適正で密度の高い評価ができます。また、教員が子どもたちと向き合う時間が増えることも期待されます。

今、全国で小・中学校を二学期制とする動きが高まっています。
二学期制とは一体何なのでしょう。
二学期制になるとどう変わるのでしょうか。
問 学校教育課 ☎ 33 1 6 8 4

【3学期制】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1学期			2学期					3学期				
春休み	始業式		★ 終業式	夏休み	始業式			★ 終業式	冬休み	始業式	★ 卒業式	修了式

一つの学期が長くなります

★印：通知票は2回になります。

秋休みができます。

長期休業が学期途中に入ります。

授業時間が増えます。

【2学期制】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1学期(前期) 4月1日～10月00日						2学期(後期) 10月00日の翌日～3月31日					
春休み	始業式			夏休み		★ 終業式	秋休み	始業式	冬休み	★ 卒業式	修了式

しかし一方で、二学期制には、
① 長期休業が学期途中に入り、学習意欲を持続させる工夫が必要
② 通知表の回数が減ることによる保護者の不安解消が必要
などの課題もあります。

県内では、平成15年度現在、横須賀市・平塚市・横浜市の一部の学校で、二学期制を導入しています。平成16年度には、横浜市が全市立学校での導入を予定しているなど、各地で二学期制導入への動きが慌ただしくなってきました。

市では、激しく変化する21世紀をたくましく生き抜く子どもたちを大きくむかために、「学校評議員制」「スタディ・サポート・スタッフ事業」「特色ある教育課程推進事業」など、さまざまな事業に積極的に取り組んでいます。

小田原の子どもたちに感性豊かで、きめ細かな教育を実現するため、二学期制についても課題などを整理し、情報提供を行いながら、よりよい方法について検討していきます。



まちづくりへの熱い思いを胸に

「ビジョン21おだわら」

市民提言会議 活動中

企画政策課 ☎331239

小田原市の総合計画「ビジョン21おだわら」の後期基本計画(計画期間平成17年(22年)に、市民の皆さんの意見を反映させるために設置した「ビジョン21おだわら」市民提言会議。この会議では、106人の市民の力が、六つの部会に分かれて作業を進めています。

環境共生都市部会(メンバー29人)

ごみの減量化、地球温暖化の防止、自然環境の保全などをテーマとした「環境」と、都市景観の向上、道路網・公園・市街地・住宅地などの整備をテーマとした「都市づくり」の二つの分科会に分かれています。

生活福祉都市部会(メンバー16人)

健康や子育て、バリアフリーなどをテーマとした「福祉健康」と、自主防災の充実、災害弱者への対応、地域の防災体制などをテーマとした「防災防犯」の二つの分科会に分かれています。

文化創造都市部会(メンバー33人)

文化振興の在り方などをテーマとした「市民文化」、生涯学習の基礎づくりや学習機会の提供などをテーマとした「生涯学習」、子どもの生きる力の醸成や特色ある学校づくりなどをテーマとした「学校教育」の三つの分科会に分かれています。

産業自立分科会(メンバー13人)

農林水産業や商業の振興、地場産業、観光(小田原城址の整備)などをテーマとしています。

市民参加都市部会(メンバー15人)

市民参加の仕組みや「協働」のまちづくり、市職員や市民の意識改革などをテーマとした「市民参加」、広域行政や市町村合併、行政改革、情報化などをテーマとした「行政改革」の二つの分科会に分かれています。

コミュニティ部会(メンバー53人)

市民自治、コミュニティ自治の在り方について、ワークショップにより検討を進めています。

市民提言会議フォーラムにご参加を

申込 企画政策課 ☎33-1239

市民提言会議のメンバーによる中間発表会。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

日時 11月30日(日)14:30~17:30

会場 中央公民館2階ホール

内容 「ビジョン21おだわら」市民提言会議各部会からの検討状況の中間報告、参加者との意見交換など

定員 100人・先着順

申込 11月5日(水)から電話で

11月3日(祝) 銀座情報プラザ 開設!

企画政策課 ☎331511
銀座情報プラザ運営委員会 ☎226900

市の中心市街地活性化事業費補助事業として採択された、銀座情報プラザがいよいよオープンします。

個人・団体が気軽に利用できる空間として話題の「レンタルボックス」、会議・集会の場としての「フリースペース」、買い物途中に気軽に立ち寄れる休憩所なども用意されました。人々が触れ合う、またネットワークの中核スポットとして、期待が高まります。

所在地 栄町2-13-16
営業時間 10時~17時(水曜日定休)

夢わくわく 御殿場線沿線地域活性化シンポジウム

申込 山北町企画課 ☎753651

沿線の13市町が参加する御殿場線沿線地域活性化検討会が、活力ある地域づくりを住民の皆さんと考えます。

日時 11月19日(水)13時30分~16時45分

(開場13時)

場所 山北町中央公民館(山北町役場隣)

内容 慶応義塾大学 高木教授による基調講演、小田原市長が参加するパネルディスカッション

※車での来場はご遠慮ください。



出土品が語る

第7室
王家の墓・古墳時代後期

小田原の歴史

市内の遺跡から発掘される数多くの出土品。これらをよく調べると、当時の文化や生活のようすが分かってきます。これら小田原の歴史を見てきた証人ともいえる出土品の中から、特に重要なものをシリーズで紹介します。併せて誌上で紹介した出土品を、その月に郷土文化館で特別に展示します。
問 文化財保護課 ☎33-1717

市内久野の丘陵には、「久野九十九塚」「久野百塚」などと呼ばれた、たくさんの古墳がありました。これらの古墳は、久野諏訪ノ原古墳群と呼ばれ、その多くが開墾などにより失われてしまいました。



久野1号墳

現在では39基の古墳が確認されるにとどまりませんが、中でも久野1号墳は、「百塚の王」「王塚」などとも呼ばれ、墳丘の直径は39メートル、高さ5.9メートルと、非常に大きなものです。その規模から、足柄平野を治めた権力者の墓であろうと考えられています。

また、久野2号墳では平成4年に発掘調査が行われ、須恵器や土師器などのほかに、金銅製の大刀や象嵌のある鐔などの鉄製品、勾玉や管玉などの玉類が多く出土しました。このような豊富な副葬品から、久野2号墳も、かなりの権力者の墓であろうと推定されています。

なお久野4号墳は、現在でも見学ができるように復元されており、久野1号墳とともに市の指定文化財に指定されています。出土品も郷土文化館に展示されていますので、ぜひお出掛けください。

<参考にした本>

- 「小田原市文化財調査報告書第58集『久野2号墳』」小田原市教育委員会
- 「小田原市史『資料編原始古代中世』」小田原市



大日如来坐像

11月22日(土)・23日(祝)には、好評の「小田原ゆかりの優れた建造物」国登録有形文化財を一般公開します。詳しくは「広報おだわらいふ」11月15日号でお知らせします。

※車での来場はご遠慮ください。

場所 宝金剛寺(国府津2038)

日時 11月8日(土)・9日(日)
10時～15時

この機会にぜひご覧ください。

東寺真言宗国府津山宝金剛寺では、国指定文化財大日如来坐像をはじめ、数多くの貴重な仏像・仏画などを所蔵しています。今回、初めての試みとして、大日如来坐像、不道明王と両童子立像(県指定文化財)、その他古文書の一部を一般公開することになりました。

宝金剛寺 収蔵庫 秋の一般公開

問 文化財保護課 ☎33-1714



鉄製銀象嵌倒卵形鐔付大刀 (久野2号墳出土)

長さ88.9センチメートルと推定される大刀で、鐔などの刀装具が多く残っていました。中でも倒卵形で八つの窓がある倒卵八窓式の鐔は、半円をモチーフにした銀象嵌が施された優れたものです。

金銅装大刀 (久野2号墳出土)

長さ83.9センチメートルのほぼ完形の大刀で、金銅装の鞘に納まっていたと考えられます。このような大刀は、地域の有力者しか持つことができませんでした。



PRIO メール

政策総合研究所 ☎33-1309

一地域助け合いシステムの 実験開始!

政策総合研究所(PRIO)の「善意の交換・循環研究グループ」は、7月から研究を進め、お互いを思いやる気持ちや助け合うための活動などといった「善意」をつないだり、交換したりできるような仕組みについて、ある実験を考えました。

「徳」の参加者募集!
地域助け合いシステム・「徳」の実験

「これならできる」「頼めると助かるな」と興味を持った皆さん、ぜひ私たちの実験に参加してください。

実験期間 11月1日(土)～2月15日(日)予定

ただし、11月中は試行。

第一次募集期間 11月14日(金)まで。

なお実験期間中は、参加者を随時受け付けます。申込方法などはお問い合わせください。

参加資格 高校生以上(中学生以下は保護者の承諾が必要)。団体での登録も可。

※詳しくは、政策総合研究所(市役所4階)、市民活動サポートセンター、マロニエ、各支所連絡所、図書館にあるパンフレットをご覧ください。政策総合研究所ホームページでもご覧いただけます。

「善意」が循環すると、住みよいまちには?

「話し相手になります」「犬の散歩をします」。「こうしたちょっとしたことで、それによって助かる人が地域にいます。」「こんなことができるのだけど、人に言うほどの特技ではないし...」と思ってる人はいませんか?「これを人に頼めたらなあ...」と思っても、ためらってしまっていることはありませんか?

そんな「思い」が出合い、お互いに「助けたり、助けられたり」と、人々の「善意」が身近なところでうまく循環していけば、より住みよい地域になるのではないだろうか。お互いの「善意」をつなぎ、交換できるようなシステムがあれば、「善意」が循環していくのではないだろうか。私たち研究グループは、考えたのです。

地域助け合いシステム・「徳」

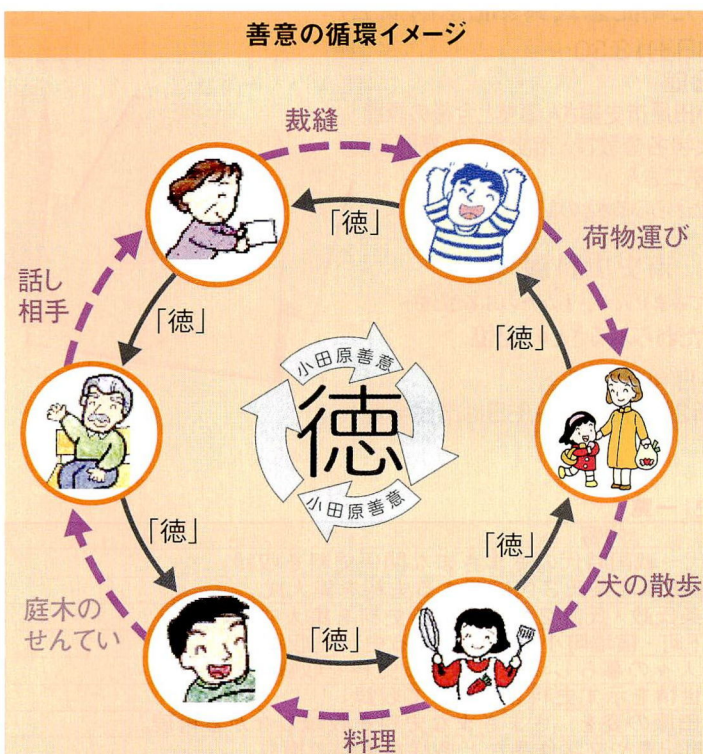
そこで、本当に人々の「善意」がつながり循環するかどうかを確かめるために、実験をすることにしました。この仕組みを「地域助け合いシステム・徳」と名づけます。

実験のルールについて

- ①だれかに何かしてもらったなどの「善意」を受け取ったときに、相手に渡す紙券の単位を「徳」とします。例えば受け取った「善意」を500徳、1,000徳などと表します。このとき、受けた「善意」が何徳の価値があるのかは、「善意」の提供者が決めます。
- ②実験には、実際に数字が印刷された紙券と封筒形式の記録簿を用意します。
- ③「善意」を受けた人は、記録簿(封筒)の中にある徳数の書かれた紙券を「善意」を提供した人に渡します。紙には「100徳」などの徳数が書いてあります。そのとき、自分の記録簿(封筒)の



善意の循環イメージ



- 善意の交換に参加したい人は、所定の用紙で登録します。
- 登録者間では、「徳」で感謝の気持ちを示します。
- → は感謝の気持ち「徳」、← は善意の行為

小田原市史編さん事業完結

ふるさと小田原の歴史を丸ごとキャッチ

「ふるさとの歴史を知りたい、そして後世に残したい」との思いを込めて、昭和56年4月に始まった市史編さん事業。小田原市史全15巻の最終巻、小田原歴史事典となる「年表」の発刊で、すべての事業が完結しました。小田原市としては初の、本格的な自治体史の出版事業となった22年間です。

図書館市史編さん担当 ☎238510

あゆみ

昭和56年4月	事業開始(準備期間) 史料の調査・収集
昭和57年4月	市史史料委員委嘱
昭和61年4月	市史編さん専門委員委嘱
昭和61年7月	市史編さん委員委嘱
昭和62年7月	機関誌「おだわら歴史と文化」発刊以降13号まで
平成元年3月	市史「近世Ⅱ藩領1」刊行 以後史料編9巻・通史編3巻・別編3巻刊行
平成元年11月	『小田原地方新聞記事目録』発刊

市史編さん事業完結にあたって



一橋大学名誉教授
市史編さん専門委員
永原慶二さん

古代から現代まで、小田原地域の基礎的な史料により、時代の特徴をまんべんなく明らかにすることができました。特に人々が暮らす「まら」としての小田原が、どのように推移したかを具体的に掲載しました。

鎌倉時代以降、小田原は東海道の宿場として発展し、大森氏の時代に

城館が築かれました。続く北条五代の中では、小田原の歴史的・基礎的な原形が形づくられ、「大外郭」として今も残されています。関東の中心となった小田原は、中央(京)との経済・文化の交流拠点として形が整えられ、江戸時代には城下町として、東海道屈指の宿場町として発展してきました。しかしその中で、繰り返す自然災害に果敢に取り組み、為政者・住民の姿をも描き出しています。

近代に入っても、小田原は首都・東京との距離が近く、全国的に知名度が高い都市としての特徴をそろえています。

「通史編」の骨格には、交通の要衝・別荘地であったことなどが叙述され、特に関東大震災への取り組みが丹念に述べられていることが特徴となっています。また、別編「城郭」「自然」「年表」は、小田原の特色がよくとらえられています。

全国の自治体史としては、精度の高い小田原市史十五巻が発刊できたことは、関係者、市民の皆さんの支えがあったからだと思えます。今後はこれらの成果を生かして、地域の歴史学習の素材として活用されることを願っています。

平成6年11月 市史史料展開催(市制60周年記念「60年前の小田原に立ってみませんか」など9回)

平成9年3月 「聞き語りおだわらふるさと」の記憶」発刊

小田原市史完結記念式典&記念講演会

日時 12月6日(土)13:30~
場所 市民会館
記念講演会「小田原市史編さん事業と今後の課題」
講師 一橋大学名誉教授・市史編さん専門委員 永原慶二さん
※来場者に「おだわらふるさとの記憶」を差し上げます。

市史史料展

～振り返ってみませんか、あなたのふるさとを～
おだわらふるさとの記憶

日時 12月1日(月)～12日(金)
場所 市役所2階市民ロビー(6日は市民会館)



『小田原市史』一覧

	書名	内容
史料編 全9巻	「原始 古代 中世Ⅰ」	縄文・弥生時代の遺物や、古代～戦国時代のさまざまな関係史料を収録。
	「中世Ⅱ 小田原北条1」	北条早雲・氏綱・氏康まで、小田原北条氏3代に関する史料を集大成。
	「中世Ⅲ 小田原北条2」	前巻に続き、小田原城城主北条氏政・氏直2代に関する史料を集大成。
	「近世Ⅰ 藩政」	大久保・稲葉氏の治世や、城下町・宿場町小田原に関する史料を収録。
	「近世Ⅱ 藩領1」	江戸時代前期の小田原藩領の人々の暮らしぶりを伝える史料を収録。
	「近世Ⅲ 藩領2」	前巻に続き、江戸時代後期の世情を示す史料を厳選して収録。
	「近代Ⅰ」	変革期を迎えた明治時代の小田原の姿を、さまざまな史料を収録しながら再現。
	「近代Ⅱ」	大正・戦中期の小田原を、新聞記事や文学作品など多様な史料で構成。
	「現代」	戦後50年の小田原の歩みを身近な史料で構成。「統計に見る小田原」を併録。
	通史編 全3巻	「原始 古代 中世」
「近世」		江戸時代の小田原の歩みを史料を使って分かりやすく記述する本格的通史。
「近現代」		明治時代から西暦2000年までの小田原の歩みを記述する本格的通史。
別編 全3巻	「城郭」	小田原城や石垣山一夜城と近隣城館跡を写真や絵図・史料などで解説。
	「自然」	小田原の自然を「地形・地質」「気象」「植物」「動物」「海の生物」の分野で概説。
	「年表」	原始・古代から西暦2000年までの小田原の歴史を時代順に記述。7700項目の索引付き。

※お求めは市内書店、行政情報センター(市役所4階)、図書館などで。各4,000円～8,600円

「板橋 秋の交流会」 昔のたたずまいを残す「板橋」に、特別な3日間が訪れる。
日時 11月9日(日)、22日(土)、23日(祝) 場所 松永記念館ほか ☎郷土文化館 ☎23-1377

12/10 (8:30~)

「公共施設予約システム」が新しくなります!

<http://yoyaku.city.odawara.kanagawa.jp/>

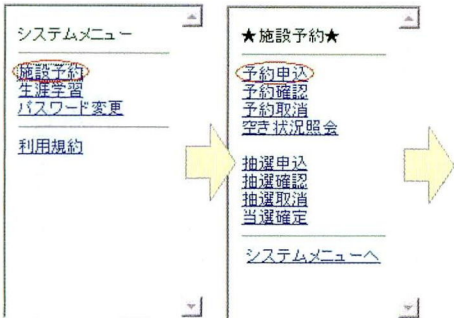
基本的な機能は大きな変更をしませんので、これまでお使いのかたもご安心ください。これからも、だれもが安心して施設を利用できるよう配慮しながら、対象施設を増やしていきます。

追加される機能(携帯電話サービス)

●携帯電話のi-modeから予約などができるようになります

(ポータフォンプライム、EZ-webは順次対応します)

<http://yoyaku.city.odawara.kanagawa.jp/i/>



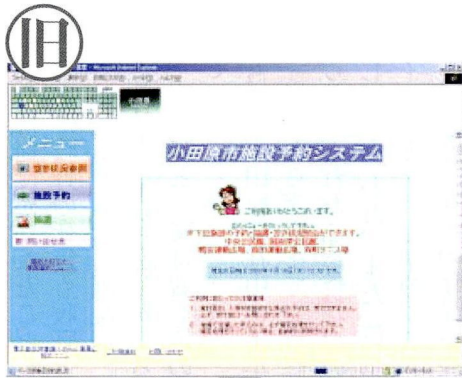
予約システムの主な変更点

●URL(アドレス)が変更になります
パソコンなどの「お気に入り」登録を行っているかたは変更が必要です。

●画面が変わります

○「インターネット」

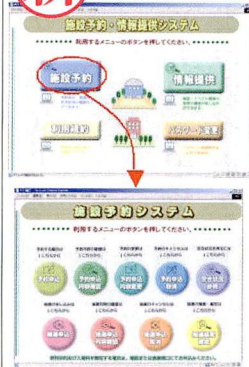
左側のメニューに「情報提供」と「講座」が追加されます。



○「タッチパネルパソコン」

(マロニエ、中央公民館、国府津公民館、小田原アリーナに設置) 画面構成が変更になります。

新



旧



IDとパスワード

スポーツ施設をご利用のかたは、現在お使いのIDとパスワードをそのままご利用になれます。公民館をご利用のかたは、IDとパスワードが変更になります。11月27日(木)に説明会を開き、その場で配布します。 問中央公民館 ☎33-1881

マニュアルの配布

希望されるかたにはマニュアルを配布します。中央公民館、国府津公民館、小田原アリーナの窓口でお受け取りください。なお、インターネットからもダウンロードできます。

※システム停止:新システムへの切替作業のため、12月8日(月)・9日(火)はシステムを停止します。ご注意ください。



緑届

婚姻届・離婚届・養子縁組届・養子離

身分証明書が必要な手続き

理解とご協力をお願いします。

事件の発生を未然に防ぐため、ご

あったことを郵便でお知らせします。

きは、後日届出人に対して届け出が

ただきます。本人確認ができないと

には、住所・氏名の確認をさせていただ

き身分証明書を提示していただくこ

とにしました。代理でお越しのかた

は、住所・氏名の確認をさせていただ

き身分証明書を提示していただくこ

とにしました。代理でお越しのかた

は、住所・氏名の確認をさせていただ

き身分証明書を提示していただくこ

とにしました。代理でお越しのかた

は、住所・氏名の確認をさせていただ

き身分証明書を提示していただくこ

とにしました。代理でお越しのかた

は、住所・氏名の確認をさせていただ

き身分証明書を提示していただくこ

とにしました。代理でお越しのかた

は、住所・氏名の確認をさせていただ

き身分証明書を提示していただくこ

とにしました。代理でお越しのかた

は、住所・氏名の確認をさせていただ

き身分証明書を提示していただくこ

12月1日から
戸籍届出には
身分証明書が必要です

問戸籍住民課 ☎33 139 1

真珠

坂口安吾

坂口安吾全集
冬樹社

十二月六日の午後、大観堂から金を受取って、僕は小田原へドテラを取りに行く筈であった。三好達治の家へ置いたドテラや夜具が夏の洪水で水浸しとなり、それをガランドウが乾してく

れた筈であった。ガランドウは正確に言えばガランドウ工芸社の主人で、看板屋の親爺。牧野

信一の幼友達でも

あり、熱海から辻堂にかけて、東海道を股にかけて、看板を書きに立廻っている。

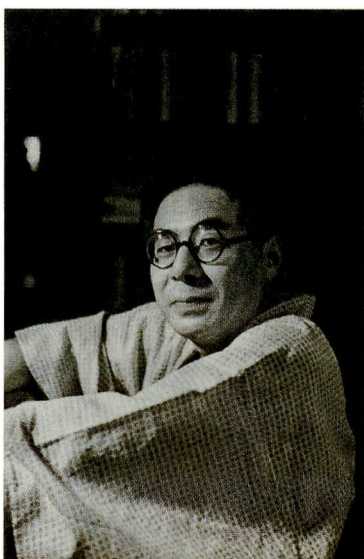
(略)

いくらか冷たい風はあったが、快晴である。西の窓に明神岳がくつきりに見える。

(略)

僕は生来の出不精だけれども、小田原の天気の良い日は、ふと山の方へ歩きたいような気持になる。このあたりは、多分、空気に霧が少いのであろう。非常に陰影がハッキリしていて、道が光り、影があざやかに黒いのである。

(略)



「墮落論」などの評論や「白痴」「桜の森の満開の下」などの小説で知られ、戦後太宰治や織田作之助とともに「無頼派」の作家として人気を博した坂口安吾(1906～1955)は、昭和15年1月の半ばころ、その一年ほど前から小田原に住んでいた詩人の三好達治(1900～1964)の誘いにより小田原に転居してきました。

小田原は、気候が温暖で過ごしやすいくだけでなく、安吾と文学での交流の深かった牧野信一(1896～1936)の故郷であることから、牧野の生前には何度か訪れたこともありました。また牧野の死後も牧野と親交の深かった「ガランドウ(画乱洞)」山内直孝(1901～1975)がいることから、安吾にとっては親しみのもてる土地でした。

安吾は、小田原滞在中の1年余りの間に、早朝から深夜まで文章修行や三好から薦められた「切支丹物」の読書に精進したといわれ、また「篠篋の陰の顔」「イノチガケ」「文学のふるさと」「ラムネ氏のこと」などの作品を発表しました。なかでも、「文学のふるさと」は「なにか絶対の孤独―生存それ自体が孕んでいる絶対の孤独」という一文によって、安吾の文学観が際立っている著名な文学論です。

今回取り上げた「真珠」は、昭和16年12月8日未明に、日本海軍がハワイの真珠湾を奇襲したとき、特殊潜航艇によって自らの命と引き換えにアメリカの戦艦を撃破しようとした「軍神九勇士」について書かれた小説で、戦争を扱った作品としては文学的評価の高いものです。この作品は安吾が小田原の

画乱洞を来訪し、真珠湾攻撃のニュースを聞いたことが契機となって生まれました。

作品中には小田原、箱根、国府津、二宮といった地名や、東海道線の複雑な化工事のようなすがすがしい登場します。

牧野信一に激賞された文壇デビュー以後、不遇のときが長かった安吾は、小田原時代を経て、戦後に目覚ましい活躍を遂げ、長きにわたって多くの読者を魅了し続ける優れた評論、エッセイ、小説を著しました。この礎が小田原時代に築かれたと考えることもできるのではないのでしょうか。



安吾居住地 旧早川橋左岸際

第10回小田原文学館特別展 「坂口安吾展」

市立図書館 ☎24-1055

小田原時代を中心に、戦後の活躍以前の安吾の姿を、自筆原稿や遺品を通じて紹介します。

日時 11月1日(土)～30日(日)9:00～17:00
(入館16:30まで)

場所 小田原文学館
観覧料 大人250円、小・中学生100円

輝く小田原人

若い世代に脈々と受け継がれる

国指定重要無形民俗文化財

相模人形芝居下中座

東京駅まるきた伝統空間での公演が決定

下中座の座長を務める岸忠義さんは、小澤彌太郎さん、小澤孝蔵さんに続く三代目。事務的な仕事を手伝うことによって裏側から下中座を支えていた岸さんは、定年退職した昭和62年にその人柄を見込まれ関係者から懇願されて座長を引き受けました。そのとき座員はわずか8人でした。

岸さんの座長としての仕事は、まず座員を増やすことから始まりました。人形芝居に関心を持つ多くの人に広く門戸を開放し、仕事を持ちながらでも続けられるようにと、資格制限をせず、練習を土曜日の午後とするなどの方針を打ち出して「下中座人形教室」を開いたのです。このときの受講生は、翌年後に教室一周年を記念した初公演を経験した後、全員が座員となりました。

その後、一年に一演目ずつ上演演目を増やすことを目標にけいこに励み、市内ばかりでなく、全国各地から公演依頼を受けるまでになりました。また、高校・大学などへの指導にも情熱を注いでいます。

下中座座員は総勢36人。そのうち20歳代以下が12人を数える若々しい組織となりましたが、これは昭和55年以来指導を続けている県立二宮高校卒業生の参加が原動力となっています。昨年秋からは橘中学校の相模人形クラブの指導にもあたっています。このような活躍が(財)東日本鉄道文化財団に認められ、今年、東京駅での特別公演が決定しました。

岸座長は、「東京駅での公演は、下中座や小田原をPRする良い機会なので力が入ります。これを機に市内外に下中座を知る人が増え、地元にももっと応援していただけるようになれば、われわれの活動もさらに充実できます」と期待を語ってくれました。



鎌倉芸術館での公演(伽羅先代萩)



下中座の皆さん。前列右端が岸座長

＜相模人形芝居下中座＞江戸時代から明治にかけて、県内では、少なくとも15の人形芝居があったと伝えられるが、そのうちの現在実演されている五座の一つ。昭和28年に県無形文化財指定を受けた折、当時の村名(足柄下郡下中村)を冠し「下中座」と命名。昭和37年神奈川文化賞、昭和53年市民功労賞受賞。昭和55年国重要無形民俗文化財に指定。



橘中学校での指導風景。橘中学校「相模人形クラブ」15人に、東京から通う林美禰子さんを中心とした熱血指導が行われています

「まるきた伝統空間・秋公演」

日時 11月14日(金)16:00、18:00
15日(土)13:00、15:00
場所 東京駅丸の内北口ドーム特設舞台

「民俗芸能大会」

日時 11月16日(日)12:00～16:00
場所 市民会館
問文化財保護課 ☎33-1717

第2回

「全国童謡フェスティバル」

「白秋 IN 小田原」

創作童謡詩コンクール
最優秀作品決定!

北は北海道、南は沖縄まで、全国各地から1,256人、1,742作品のご応募をいただきました。

最優秀作品

には、作曲家の

石井歡さん、湯

山昭さんが曲

をつけ、由紀さ

おりさん、安田祥子さんが、1月17

日(土)の全国童謡フェスティバル当日

に披露します。白秋がこよなく愛し

た小田原、童謡が聞こえるまち小田

原で、新しい童謡が生まれます。

観覧希望者は11月15日(土)までにお申

し込みください。詳しくは「広報おだ

わらいふ」10月15日号をご覧ください。

入賞者(敬称略)

〔一般の部〕

最優秀賞 『きんのはつば』

小山肇美(兵庫県宝塚市)

優秀賞 『かげおくり』

五十嵐典子(平塚市)

優良賞 『花束』

石川綾乃(横浜市)

〔中学生以下の部〕

最優秀賞 『ふしぎ ふしぎ』

箕島沙宥実(小田原市)

優秀賞 『あわ』

鐘ヶ江麻奈(南足柄市)

優良賞 『城址公園のスター そっさん』

小西怜美(小田原市)



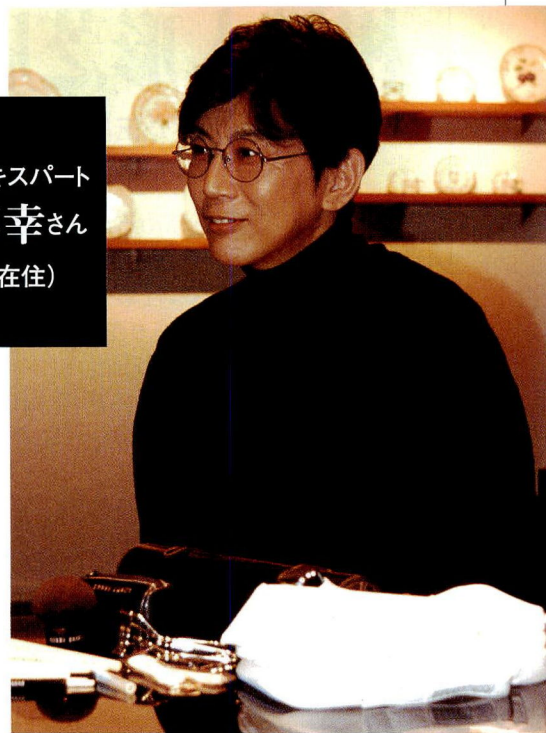
子どもの幸せは、 毎朝5分間の美容から

小田原発全国を駆けめぐるビューティ エキスパートの第一人者・大高博幸さんから、広報リポーターの永井さんを聞き手に、子育て中の頑張る人たちへメッセージをいただきました。

人は誰でも歳を重ねれば老いるもの。でも若さに勝る美しさというものもあるんです。大事なことは、瞳を美しくすることです。つまり表情を深く豊かにすることですね。若いときにはなかったオーラがきつと現れますよ。

僕は多くの女性にメイクアップをしてきました。いつも大切にしていることは「会話」。技術を磨いていけば、きれいなメイクをすることはできます。しかしお人形のようにきれいにしても、笑ったり考えたりしているときの表情にうまくなじまないメイクなんて、いいメイクとは言えません。だから、その人の表情を生かすために、会話を大切にします。僕の仕事は、メイクアップと会話の両方で、その人が自信を持ってカメラの前に立つことができるよう、背中を押してあげることなんです。

ビューティ エキスパート
大高 博幸さん
(小田原市在住)



おたかひろゆき：化粧品会社の宣伝部に就職し、美容の基礎を勉強したところ才能開花。メイクアップアーティストの道を歩むことに。現在は独立し、数々の著名人や女優などのメイクアップを手がける「ビューティ エキスパート」として、世の女性から圧倒的な支持を受けている。雑誌・ラジオ・テレビでの活躍を始め、「綺麗な福音」(世界文化社)、「美容塾」(アスキー・コミュニケーションズ)などの著書も出版。仕事は東京を中心に全国に及ぶが、生まれ育った小田原にこだわらる。「小田原の人は、僕を見かけるとにこやかにあいさつしてくれます。すると親せきのように思えてしまうんです。気持ちが温かい感じ」と笑顔。現在は奥さんと二人暮らし。1948年生まれ

最近、「子育てや家事に忙しくて化粧もしていられない」と嘆くお母さんが多いそうですね。でもそれは間違いです。朝の5分を美容に費やすだけでも全然違ってくるんですよ。本当は忙しさを言い訳にして、きれいにする努力を怠っているだけなのでは？

なぜ僕が皆さんの美容にこだわるかというと、それは自分を大切にしたいからなんです。人は表情が暗い人に会うと心が曇ります。そして心配し、不安にかられるのです。子育て中のお父さんお母さんには、特に言いたいですね。荒れた肌、ボサボサの髪をそのままにしている姿を見ている子どもは、生活そのものに不安を感じてしまうもの。逆に、きれいにしている親を見ている子どもは、心が満たされるのです。子どもは見抜いている、これは本当ですよ。子どもの情緒の成長にご両親の明るい笑顔はとても重要なんです。これは夫婦間でも同じこと。毎日鏡を見て、自分の顔つきをチェックしてください。



初公開! 大高さんの七つ道具。「まつげが短い人は、歯間ブラシでマスカラを付けるとききれいに仕上がりますよ」「アイスクリームのスプーンは、口紅やリップグロス(つや出し用の口紅)をブレンド(混ぜ合わせる)するのにとっても便利」と貴重なアドバイス。メイクが上達するコツは、少しの工夫とチャレンジと話す
※写真左は広報リポーター 永井恵理子さん
取材場所 ギャラリー&カフェ空(城山)



毎週生出演しているFM放送「J-WAVE」(81.3kHz)の「ピバ! アクセス」スタジオブースで(毎週木曜日11:30~16:00放送)
(注)大高さんが出演しているのは、「ピバ!アクセス」の中の「クイック・アクセス」というコーナーで、12:03ころスタート(10分~13分ほど)